

池田文書の研究 (三十一)

竹山屯の書簡について (その四)

池田文書研究会

44 明治二十九年五月六日

(一九五三号)

(封筒裏) 東京神田区駿河台北甲賀町九

池田謙齋先生御侍史 新潟市上大川前六 竹山屯

(消印七日)

(封筒裏) 五月六日夜 (消印) 東京廿九年五月八日ヲ便

謹啓仕候、益御清適奉拝賀候、陳ハ茂様御容情著敷御変化ハ無之候得共、十数日前ニ比候得ハ病勢相進候方ニテ、如御高示麻痺性癲狂症共可申上症ニ御坐候半、四五日前二日間計食事薬用共御用無之、僅ニ牛乳式合位強テ御進メ申上候位之次第ニテ心配仕候処、其後ハ又御食事も可也ニ御用ニ相成候、内用之沃剥含嗽ハ迎も都合能施し候事ハ六ヶ敷、乍不規則交互ニ御勤申上候て辛テ一日量尽し被成候、永ワセリンハ四、〇ツ、御示之通り本日ニテ十一日連用仕候処、

両三日前少し眠ニ感候哉も被申候事も有之候得共、是も当二も不相成、昨日今日ハ更ニ御感し被成候様子も無之候故、三、〇位ニ減し持長仕候方可然欵ニ奉存候、御睡眠ハ相応ニテ昼夜平均仕候得ハ六七時間、時トシテハ八九時間候事も御坐候

一、近頃御宅之御心配事柄ハ少も御嘶無之、唯おミウガ(細君)縛ラレテ居とか獄ニ居ルとか申様之事多く、細君か御看護被成候と兎角興奮被成候、(無遠慮叱責被成候て更ニ愛情等ハ無之) 錯視異聴之景状ニ御坐候得共、敏太君峰太君其外行田君等之御弁別ハ餘り御間違も無之候、右之御容躰一寸為御知申上候

一、過日敏太君御帰宅之節ハ海苔沢山蒙御患贈難有奉拝謝候、右御礼旁乱筆前後御判読被成下度候、草々頓首拜白

五月六日 竹山屯

池田謙齋様御侍史

(齊藤)

45 明治二十九年五月十五日

(一九五〇号)

(封筒裏) 東京神田区駿河台北甲賀町九 池田謙齋先生

煩御自展 新潟市上大川前六 竹山屯

(封筒裏) 明治廿九年五月十五日 (以下不明)

(消印) 武蔵東京廿九年五月十七日□便

十二日之尊書正ニ奉拝見候、暖和之候益御清榮奉扑賀候、陳は茂様御容躰前便申上候後、御精神も大ニ鎮靜、食事も追々旧ニ復し(先日ハ三日終日一碗或ハ忒碗牛乳薬用も六ヶ敷御坐候処)薬用牛乳も左而已六ヶ敷無之御用ニ相成申候、先日塗擦汞ワセリント記し申上候ハ全ク書損ニテ、兼て御教示之通りヲノリンニ二分汞一分之ものニ御坐候、齒齲も午後格別之事も無御坐候故、旧量四、〇ニ服し、御睡眠ハ鎮靜劑ヲ不用候共六七時、時トシテハ八時間位ハ御眠ニ相成候故、内用ハ目下沃剥而已少シツ、増量連用申上候、時トシテハ便秘被成候故、疏苦之頓服又ハ浣腸申上候事も一度有之候、本月初旬ニ比スレハ、大ニ鎮靜靜肅之方御坐候得共、健忘ハ従前と異候事無御坐候、右時々可申上之処、少シ御宜敷方ニ向候得ハ幾分ハ安心致し候様之心持ニテ、多事ニ取紛御報知も延引仕候

一、費用御送り候儀云々拝承仕候、多分之御取替にも無之候故、幾日ニても宜敷御坐候、全不申上候ても却て御心配ヲ煩候故左ニ申上候

一、金六円 是ハ兩度之牛乳其他小買物分差上置候

一、金拾五円 是ハ茂様御召替其外御買物之節、是ハ尊君へ不申上、追て送候様敏太君之御嘶

一、御宿泊ハ別紙之通りニ御坐候、本月上旬迄ハ御一集之賄ニ相成居候得共、其後行田君へ申上候て、敏太来候故御附添之方ハ次之賄ニ仕置候

一、茂様前陳之御容躰ニ被為在候故、敏太君も明日西野へ

御出立、三四日御滞在御帰京之上御帰校被成候事ニ御決ニ相成候、其後之御看病ハおりつさまニ佐野之妻君と參候筈、其上引統鎮靜ニて御一人ニて相濟候ハ、おりつさまも御帰宅被成候事ニ申上置候、右乍延引御報知且御返事も毎度乱禿御助誦被成下度候、草々拝復頓首

五月十五日 竹山屯

池田先生虎皮下

記

一、入沢茂様 (四月十一日迄) 三十四日間
五月十五日迄

一、入沢御内政 (四月十三日迄) 廿六日間
五月九日迄

一、行田様 (四月十一日一泊) 七日間
四月十七日迄
四月廿四日迄
五月五日迄

一、行田御内政 (四月廿八日迄) 五日間
五月五日迄

一、池田正人様 (五月三日迄) 三日間
五月五日迄

一、敏太様 (四月廿八日迄三泊) 十日間
五月九日迄
五月十五日迄

一、峯太様 (五月五日迄) 二泊

一、リツ子様 (五月八日迄十五日迄) 七日間

一、池田御内政 (四月廿四日迄) 二泊

計九十六日

内八十二日 (一日分金貳拾七匁ツ)

敏大様七日分
おりつさま七日分
計十四日

(一日分金式拾棧ツ、)

(齊藤)

46 明治二九年六月六日

(一九〇九号)

(封筒表) 東京神田区駿河台北甲賀町九 池田謙齋先生 煩

御親閱 新潟市 竹山屯

(封筒裏) 封 六月六日夜 (消印) 東京廿九年六月九日

奉謹賀候、陳は茂様本月一日

熱朝三七、八 昼三八、 脈八十八至九十二日朝三七、

八 昼三八、四 後三時三八、八 ○・五ヲ用 夜三八、

三日四日五日熱無之候得共脈ハ八十至九十 六日朝三八、

前十時三八、七 十二時比三八、八 ○・五 後五時三八、五

○・五 後十時三七、四

一日以来御食機も大ニ減し、一日一度粥ニ碗稀ニ式度御用
も有之候得共、昨ハ熱も無之候得共、終日牛乳も色々致し

候得共御用無之、小便ハカテテルヲ挿入致し候事も有之、
又時々自利致し候ても御分り無之、大便も時トシテハ自利

致し候事も有之、又稀ニ御勤メ申候て都合能便所ニテ出候
事も有之、何も御精神ハ益遲鈍ニ相成、時トシテ便所内ニ

横臥致し居被成候等ニテ、近比御衰弱も加り大ニ心痛仕候、

前便申上候腸臍ハ減し、御食餌減候故か腹壁却て凹陷致し
候、牛乳も如意御用被成兼次第ニテ、誠ニ困却仕候、齒齦
ハ別条無御坐候間、塗擦ハ尚連用仕居候、右御報知迄呈寸
楮候、草々頓首敬具

六月六日夜 竹山屯

池田先生閣下

(齊藤)

47 明治二九年六月九日

(一九五二号)

(封筒表) 東京神田区駿河台北甲賀町九 池田謙齋先生御侍

史 新潟市上大川前六 竹山屯 (消印)

(封筒裏) 封 六月九日朝 (消印)

明治廿九年五月、六月入沢茂体温脈搏表

茂様御凶報今晩電信申上候、六日夜認御容臍申上候後、尚

又熱少シ増候得共、他ニ著敷御容臍も無之、咳嗽咯痰水泡

音等ハ少も無之、御食事ハ六日朝ニ碗御用之後ハ無之、僅

ニ牛乳ソツフヲ僅ニ一食匙位御用被成候位之事ニテ漸口中

へ入れ候ても多クハ吐出し嚙下不被成、浄水ハ可也能ク御

用ニ相成、小便ハ六日三度八日朝一度便所へ御越被成候外

ハカテテル挿入又ハ褥上ニ自利被成候、脈搏ハ相進候得

共強実ニシテ力アリ、大便ハ自利又ハ浣腸仕候、右之御容

躰ニテ御衰弱ハ幾分相加候得共、斯ク急之事も有之間敷と存候処、昨深更喘鳴有之、今晚三時比方脈微細と相成、直ニカンフル油〇、一、三回注射連用仕候得共、少も興奮不被成心悸殆ト聴取スル事克ハス、呼吸次第ニ輕浮トナリ、終四時半御逝去ニ相成候、誠ニ御愁傷之段奉恐察候、斯急ニ心臟麻痺症ヲ發候事も有之間敷と存候得共、漸々御衰弱相加候故、昨夜御容躰御報知可申上心得之処、回帰熱發生預防隔萬等之協議之為市役へ出頭、終認兼居候処、右之次第ニテ誠申訳無之次第第二御坐候、乍御不用体温表入封差上候、草々頓首敬白

六月九日朝 竹山屯

池田謙齋様御侍史

(齊藤)

48 明治二十九年六月十二日

(一九五七号)

(封筒表) 東京神田区駿河台北甲賀町九番地 池田謙齋先生

煩御親聞 (消印)

(封筒裏) 封 六月十二日 新潟市 竹山屯 (消印)

御送葬ハ明十三日前十時と御定之由

十日之御尊書并ニ金貳百圓之為替券御入封并ニ外一通共十日茂様御送候、且御母堂様、おミウ様拝診察旁西野へ罷出

熊之森へ回り本日帰宅、正ニ拝誦落手仕候、実ニ御一家之大々不幸奉恐察候、おミウ様御入院之儀誠ニ相届不申候得共、何時御越ニ相成ても御差支ハ勿論無御坐候、唯々不行届之段ハ御海恕被下度、且左之御容躰大略申上候間、治療法御教示置被成下度候、一寸御容躰何応答等ハ別ニ御不断ニ御変も無之候得共、飲食便通ハ間違居候、健忘甚敷食事不定進勝之方、挙動ハ用も無キニ時々外出被成、或ハ放歌、不用之物品ヲ多分ニ相求、夜深更縫裁(尋常ノ物ハ一トツモ不出来)睡眠ハ不定ナレトモ過度ニテ八九時、十時間以上之事も有之候由、他覚的之御容躰ハ少も不相認候、顔貌少し腫ニても有之候様ニ相見候、脈八十至、呼吸兩便通ハ先尋常之様子ニ被為在候

一、御老母様数日前方御輕快、御宅内三四日前方杖モ御廢被成候、右之腸骨后上棘下部ニ輕緊痛被成候得共、夫も一昨日ハ殆相去り、脊椎腰痛ハ全ク相去り候、脱腸も近比出不申候、唯心之濁音部左乳腺ヲ越ル事ニセンチメートル半位、上部ハ第三間下、即第四肋骨部達し居候得共、第一第二音共明亮ニても異常之音ヲ聴取不仕候、腰も幾分か曲り候方ニテ坐居被成候ニも体少し前屈之為メ、自然心臟之位置ヲ変候迄之事ニも可有之候半と奉存候、猶曾水劑ハ尚五日分有之候、用尽ニ相成候ハ、最早御服用之必用も有之間敷と奉存候

一、御送葬御入用も申上候処、五六十圓借用致し度との御事ニ御坐候間、九日夜行田君へ七十圓御渡し申置候、御老

母様へ送り候金等便次第差上可申候、尚御入用之節ハ差上置可申候

一、公債之儀何時にて御都合次第取計可申上候

右帰宅後多事申乱筆御報迄、草々奉復

六月十二日 竹山屯

池田先生御侍史

55 明治一九年十月七日

(一八九五号)

拝啓過刻は拝趨、永々蒙御厄介奉多謝候、不存寄結構之両品蒙惠投、恐縮之至ニ奉存候、何れ帰国之上万々御礼可申上候、拜具

十月七日 屯

池田先生坐下

(斉藤)

56 明治一九年三月十八日

(一九〇〇号)

奉謹啓候、時下春暖相催候処、御高堂皆様益御多样被為遊御起居奉大賀候、陳は先般は御繁忙中色々奉煩御手数難有奉謝上候、七分金録も追々当籤ニ相成候得ハ、本年中尚時機見計多少株式相求度心組ニ御坐候得ハ、預メ餘金定期預

ケニ致置候ニハ何程位之利子ニ御坐候哉、乍憚御序ニ入沢母迄為御知被成下度候

一、豚児共毎度蒙御厄介、難有奉謝上候、高等中学校之入學試験も独乙学ハ明年一期丈ケト承、正男儀本年ハ是非試験ニ及第為致度、若シ本年不合格ニて明年万一事故出来(病氣等) 勉強も為致□^ク様之儀ニも至候得は、更ニ英学より入り候ニハ又□^ク二三年も遅候故、甚心痛仕居候処、昨十二月之月次試験ハ□^ク績ニ御坐候処、一月二月と漸次成績悪く、席次四十六番迄降り、大ニ落胆仕候、罷出候節は乍憚御嚴責之御一声奉煩上度頼上候、乍末筆御満堂様へ直敷被仰上被成下度候、誠ニ如何敷御坐候得共、縮志反拝呈仕候、幸ニ御叱留被成下候ハ、本懐之至ニ奉存候、且別封御序ニ堀越増五郎様へ御届ケ被成下度、右御礼旁御願申上度、草々頓首拜白

三月十八日 竹山屯

池田謙齋先生閣下

(斉藤)

58 明治一九年四月十八日

(一九〇五号)

(端裏書)

東京

池田御隠居様

新潟

同御奥方様 竹山屯

御願用書

一筆申上候、追々暖和之時節ニ相成候処、皆々さま益御機嫌能被為入まん、御日出度奉存候、其後は多用ニ取紛誠ニ御不音ニ打過、申訳無御坐候、扱清儀も来月ハ出張ニ相成候よし、留守中ハ何かと御厄介御願可申、何事もよろしく御心添被成下度御願申上候、敏子学費之儀も乍御迷惑以來御願申上度儀姉方も入書申付候間、宜御世話被成下度候、御繁多中願上候も余り心なき様ニ御坐候得共、水原武者春道悴過般医学脩業ニ出京仕候得共、御地ニハ親類も無之、少年之ものへ金錢ヲ預ケ野放ニいたし候も誠ニ不安心故、先生家へ御願申上呉候様依頼ニ御坐候得共、兼て御繁用之処へ色々御手数願上候事故願上兼候様相断候得共、既二同人より以書中御願申上候事故、是非御願申上呉と被申、不得已誠ニ御願申上候、罷出候ハ、何卒乍御厄介御教諭被成下候ハ、難有奉存候、右御願迄あら、かしく

四月十八日

(齊藤)

共真綿少々拝呈仕度候、御叱留被成下候ハ、本懐之至奉存候、右御左右御伺旁呈寸楮候、乍憚御隠居様御奥様へ宜敷玉声奉煩度候、荊妻方も厚入書申上候様申付候、頓首敬白

三月廿七日 竹山屯

池田先生御侍史

(齊藤)

59 明治二十九年三月二十七日

(二九〇六号)

謹啓、時下春暖之節御満堂様益御多祥奉賀上候、尔来多事ニ取紛御不音ニ打過、多罪御海恕被成下度候、如何敷御坐候得